

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第4回理事会 開催日: 9月25日. 出席者: 武田会長, ほか40名.

1. 木下亨氏参与就任の件

本日付をもって木下氏が参与に就任した旨報告があり, 同氏より挨拶がなされた.

ヘンダーソン賞授賞者決定の件

論文名「共析鋼の焼入れ性におよぼすオーステナイト結晶粒体の影響」

京都大学工学部・梅本 実君

住友金属工業(株)・小松原 望君

京都大学工学部・田村 今男君

上記3名にヘンダーソン賞を授賞することを決定した.

3. 永年会員の特典について

71才以上, 在籍40年以上の正会員は申し出により昭和56年1月より会費を免除し, 「鉄と鋼」「Trans. ISI」および「鉄と鋼の会告別刷」のいずれかを希望により送付することとする.

編 集 委 員 会

第4回編集運営委員会 開催日: 9月5日. 出席者: 田中委員長, ほか17名.

1. 11件の候補論文の中から第12回ヘンダーソン賞受賞論文1件が選定された.

第8回和文会誌分科会 開催日: 9月5日. 出席者: 田中主査, ほか27名.

1. 13件の論文審査報告がなされ, 掲載決定11件, 照会后掲載可1件, その他1件であった.

2. 「鉄と鋼」第67年第1号(1月号)に論文10件, 技術報告1件, 解説3件, 特別講演1件掲載決定した.

第7回欧文会誌分科会 開催日: 9月12日. 出席者: 中村主査, ほか11名.

1. 20件の論文について審査報告がなされ, 掲載可5件, 照会后掲載可6件, 修正依頼6件, 一旦返却1件, 返却2件であった.

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より, 2件の研究論文を勧誘することとなった.

鋼 管 部 会

第27回継目無鋼管分科会 開催日: 9月4日~5日 出席者: 田中部会長, ほか延べ85名.

住金・大阪本社で開催された.

1. 第1日 マンネスマン関係

(1) 共通議題「製管工具技術について」

(2) 自由議題「省エネルギーについて」

アンケート調査結果のまとめ発表と質疑応答が上記2テーマについて行われた.

2. 第2日 熱間押し出し関係

(1) 共通議題「製管工具技術について」

アンケート調査結果のまとめ発表と質疑応答が行われた.

(2) 自由議題「省エネルギーについて」

このテーマで5社より5件の発表が行われた.

また, 両日共工場操業状況についての報告ならびに質疑が行われた.

第27回溶接鋼管分科会 開催日: 9月11日~12日.

出席者: 青木信美主査代理, ほか延べ131名.

東京・神田学士会館で開催された.

1. 第1日 電弧溶接管関係

次の2件の共通議題についてのまとめ発表および討議が行われた.

(1) 「溶接品質について」(品質管理, 検査も含む)(スパイラル)

(2) 「溶接品質について」(ストレートシーム)

2. 第2日 電縫・鍛接管関係

(1) 共通議題「溶接部品質と保障体制について」

アンケート調査結果のまとめ発表と質疑応答が行われた.

(2) 自由議題「省エネルギーについて」(鍛接管)

このテーマで4社より4件の発表が行われた.

さらに, 両日共工場操業状況についての報告ならびに質疑が行われた.

高温強度研究委員会

第8回高温クリープ・疲労試験分科会 開催日: 8月28日. 出席者: 大谷主査(京大), ほか21名.

現在実施中の“ひずみ範囲分割法にもとづく高温低サイクル疲労寿命の評価”に関する共同研究の各試験結果について審議が行われた.

1. PP, CC, PC, CP-type 高温低サイクル疲労試験結果について試験機関13ヶ所より報告の試験結果を取りまとめられたデータにつき主査より説明が行われた.

2. ひずみ範囲分割試験およびその結果にもとづく高温低サイクル疲労試験の解析について

(1) 1サイクル急速変形挿入によるひずみ範囲分割試験の結果について2試験機関で実施した結果, (2) ひずみ範囲分割法による疲労試験結果の解析が試験機関分について説明が行われた.

以上審議の結果, ひずみ範囲分割法は700°Cでは可能と思われるが, 600°Cではどうなるか検討してみることが了承された.

第1回クリープ強度外挿法分科会 開催日: 9月10日 出席者: 藤田主査(東大), ほか13名.

高温強度研究委員会に今回クリープ強度外挿法分科会(主査1名, 委員15名, 幹事2名, オブザーバ1名, 計19名)が新設され第1回の会議が持たれた. 会議開催に当たり藤田主査より挨拶があり次の順序で本日の議

事を進められることが告げられた。

1. 経緯, 2. 自己紹介, 3. 意見聴取, 4. 文献発表, 5. ASME (高温強度) 翻訳の割り当て, 6. 次回分科会開催。

最近ISOで決めた結果に対し日本側に意見を求めてきた。協会標準化委員会より当高温強度研究委員会に依頼があり、当研究委員会では金材技研および関係会社の意見を基に回答しておいたが、その回答結果がISOより届いた旨の報告があつたこと、本分科会では最近特に重要視されている長時間クリープおよびクリープ破断強度の外挿法に対する最もすぐれた方法を開発すべく共同研究を行いたい、年2〜3回会議を持つて国際的レベルまで上げたいことが了承された。

鉄鋼基礎共同研究会

第6回鉄鋼材料の摩耗部会 開催日: 9月12日。出席者: 梅田委員, ほか 26 名。

1. 場所: 経団連会館 1103 会議室

2. 課題

(1) 従来の研究に関する勉強会として次の発表および討論が行われた。

「ロール製造について」(日立金属・吉原)

「圧延ロールの摩耗に関する諸問題」

(新日鉄・中島, 大貫)

(2) 部会の活動方針を次の様に決定した。

(a) 鉄鋼材料等の金属間接触摩耗機構を解明し、金属組織と摩耗の関係を明らかにする。目標として、圧延用ロールをとりあげその摩耗を支配する因子の整理と摩耗機構の解明、ならびに摩耗評価法を確立する。

(b) 研究の進め方は、板圧延についての共同のテーマ研究と、自主研究とで進めることとする。

(c) テーマ研究はロールの損耗と圧延負荷の現状に関する調査をアンケート形式で行い、その後評価方法、試験法をとり上げる。

(d) スラリー摩耗についてもいずれとり上げることとする。

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ: 圧延歩留り向上の技術と理論

原稿締切日 昭和 56 年 3 月 10 日 (火)

昭和 56 年 11 月刊行予定の上記特集号に次のような問題に関する論文・技術報告・寄書の投稿を募集致します。

分塊圧延における圧延歩留りの向上、厚板圧延における平面形状制御と圧延歩留り、熱間帯鋼圧延におけるクロップロスと幅制御など、冷間帯鋼圧延におけるオフゲージ長、トリム代などの問題、形鋼・棒鋼・線材圧延における歩留り、パイプ圧延における寸法計測・寸法制御の技術と圧延歩留り、その他圧延歩留りに関係するもの。

記

1. テーマ 圧延歩留り向上の技術と理論

2. 原稿締切日 昭和 56 年 3 月 10 日 (火)

3. 発行 鉄と鋼, 第 67 年 13 号 (昭和 56 年 11 月号)

4. 原稿枚数 表, 図, 写真を含めて所定の原稿用紙

1) 論文 50 枚以内 (刷上り 10 ページ以内)

2) 技術報告 35 枚以内 (刷上り 7 ページ以内)

3) 原稿は本会寄稿規定に基づいて執筆下さい。

4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。

5. 問合せ・原稿送付先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F

(社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021

(注) 投稿時, 原稿表紙に「圧延特集号」と朱書して下さい。